

第12期ソマティック・エクスペリエンス®プラクティショナー養成トレーニング

in 東京

募集要項とQ&A

ソマティック・エクスペリエンス®(SE™)療法は・・・

米国のピーター・A・ラヴィーン博士によって開発されたトラウマアプローチで、身体感覚を用いて神経生理系に働きかけることで、身体の持つ自然な自己調節力を取り戻すことができる、安全で画期的なトラウマ療法です。

<第12回ソマティック・エクスペリエンス®(SE™)東京トレーニング初級1・2>

【日程】2022年6月5日(日)～6月11日(土) (計6日間、6月8日休み)

【会場】多摩永山情報教育センター <https://www.tamanagayama.com/index.php>
コロナ感染状況により、オンラインでの開催になることもあります。

【定員】45名

【講師】ディパーサニシ Dea Parsanishi, MEd, CCC, SEP

<https://traumahealing.org/member/dea-paranishi/>

【講師候補】角田みすゞ (公認心理師、臨床心理士、SEP)

【通訳】池島良子

【募集期間】2021年12月1日(水)～12月31日(金)

※12月31日23:59必着(2022年1月末を目処に受講可否通知予定)

【受講費】209,000円(19万+税10%)

◆初級1・2以降のスケジュール予定◆

- 【初級2・3】2022年12月4日～10日（12月7日休み）
- 【中級1・2】2023年6月18日～24日（6月21日休み）
- 【中級2・3】2023年11月19日～25日（11月22日休み）
- 【 上級1 】2024年5月19日～25日（5月22日休み）
- 【 上級2 】2024年11月24日～30日（11月27日休み）

- ※ 本トレーニングは、2022年～2024年の3年に渡り、1モジュールあたり6日間×6回（6モジュール）開催します。
- ※ 1年目の2モジュールは初級、2年目の2モジュールは中級、3年目の2モジュールは上級の内容となります。
- ※ 原則として、3年間、全6モジュールを同じトレーニングに参加してください。途中で他のトレーニングに移籍することは可能ですが、双方のオーガナイザーの了解が必要です。
- ※ 各モジュールは7日間（トレーニング6日間と休日1日）となります。
- ※ 各モジュール、6日間全日程への参加が前提です。米国本部の規定上、欠席は1日のみ認められますが、2日以上欠席した場合、そのモジュールを修了したことになりません。
- ※ 初級、あるいは中級においては、それぞれモジュール1回分を後日のビデオ受講に置き換えることが可能です。受講費は同額です。

詳細に関しては、Q&Aもご参照ください。

◆SEP養成トレーニングの概要◆

本トレーニングは海外よりソマティック・エクスペリエンス®(SE™)トレーナーを講師に招き、初級・中級・上級の計3年間、合計で216時間行います。3年間のトレーニングを修了し、所定時間のセッション、コンサルテーションを受けた参加者は、米国本部（SEI：Somatic Experiencing® International）より、ソマティック・エクスペリエンス®(SE™)プラクティショナー（SEP）養成課程修了証がおくられます。2021年現在、全世界でトレーニングは、6大陸20カ国以上で行われ、アジア諸国だけでも年々増え続けています。トレーニングは講義と実習からなり、講師とアシスタントがペアあるいは3人一組での実習をサポートします。講師による実際のSE™セッションのデモンストレーションもあります。またSE™療法の科学的根拠を支える理論のひとつであるポリヴェーガル理論の紹介も含まれます。

① 初級トレーニング（年2回、計72時間）

1年目は、トラウマのメカニズムに対する基本的な理解を構築し、実際にクライアントとかわる際の基本的なスキルを身につけます。

② 中級トレーニング（年2回、計72時間）

2年目は、さまざまなトラウマをカテゴリー別に分け、各分野のトラウマのそれぞれの症例への対処法を具体的に学びます。

③ 上級トレーニング（年2回、計72時間）

3年目は、眼球運動やマッサージ台の上でのボディワークなどを含む、さらに広範囲でのSE™療法の応用に加えて、複雑性トラウマによる症候群への対処の方法、最先端の神経生理学研究の実際の療法への応用などを学びます。

※トレーニングの詳細な概要はSE™ Japanホームページをご参照下さい。

<https://www.sejapan.website/>

< SE™プラクティショナーの条件 >

SE™プラクティショナー(SEP)になるための条件は、初級・中級・上級トレーニング課程の修了が大前提です。またSE™セッションプロバイダーによる合計12時間の個人セッションと18時間のコンサルテーション（講師による個人・グループコンサルテーションを含む）を受けて、それをセッション記録表に残しておく必要があります。その上で、SEP申請時に、米国本部専用のカバーページ、セッション記録表、講師の推薦状の3点を米国本部に提出する必要があります。

< 参加対象者 >

医師、看護師、カイロプラクター、救命救急士、公認心理師、臨床心理士、心理カウンセラー、精神保健福祉士、ソーシャルワーカー、マッサージセラピスト、ボディワーカー、教育者、スクールカウンセラー、その他対人援助・医療にかかわる専門職従事者で、すでにサービスを提供している方。

※ Somatic Experiencing® Practitioner (SEP) の修了証は心理療法およびボディワークを実践するためのライセンス証明ではありません。

< 参考URL >

- SE™ Japan <https://www.sejapan.website/>

- Facebook：第12期SE東京トレーニング事務局
<https://www.facebook.com/setrainingtokyo12>

- SEI (Somatic Experiencing® International) 米国本部
<https://traumahealing.org/>

みなさまのお申し込みを心よりお待ちしております。

オーガナイザー：工藤亜佐子、日高潤子、宮澤和大

問い合わせ先：第12期SE™東京トレーニング事務局 setraining.tokyo12@gmail.com

◆Q&A◆

Q1: 前回の三浦トレーニングは合宿形式でした。このトレーニングも合宿形式ですか。

A1: 過去の三浦トレーニングはたしかに合宿形式で開催されました。しかし、コロナ禍での安全を考慮し、このトレーニングは合宿形式ではありません。宿泊施設を利用するか、自宅等から通いで参加してください。

Q2: 参加申込書の書き方がよくわかりません。すべての項目を必ず埋めなければならないのでしょうか。

A2: 記入に際し、ご不明な点がありましたら、どうぞお気軽にメール (setraining.tokyo12@gmail.com) でお問い合わせください。ご記入いただく内容も大切ですが、私たちは学びたいという熱意も大事にしていますので、まずは応募なさってみてください。

Q3: 対人援助職の専門資格を持っていません。参加は無理でしょうか。

A3: たしかに、専門資格を有していることが参加条件となっています。ただ、以前のお仕事が対人援助に関するものである場合など、参加要件を満たしていながらご本人がそれに気づいていないこともあります。迷われる場合は、経歴やご経験をなるべく詳しく具体的にご記入の上、応募をなさってみてください。

Q4: とても関心があるのですが、参加してもついていけるかどうか不安です。

A4: 参加確定からトレーニング開始までに3か月以上あります。せっかく関心をお持ちくださっているのでしたら、申し込んだうえで、この期間に準備してみるのはいかがでしょうか。たとえば、参考文献を読むのもよいかもしれません。SE™Japan の公式サイトに、SE™セラピーを確立したピーター・ラヴィーン博士の著作が紹介されています。また、同サイトには、他にも SE™についての情報が読みやすくまとめられています。ご覧いただくことで、不安解消の助けになるかもしれません。

SE™Japan の公式サイト <https://www.sejapan.website/>

Q5: 支払いに不安があります。支払い期限のタイミングによっては、参加を見合わせようかと迷っています。

A5: トレーニング参加費のお支払いは、参加決定通知(2022年1月末頃のご案内)から1か月程度のタイミングで支払方法の詳細をご案内いたします。参加決定直後のお支払いではありませんので、そのようにご理解いただいてご検討いただければと思います。

Q6:トレーニング期間中の休息日は、勤務してもよいですか。

A6:トレーニング期間中の休息日は、ゆっくり休むことで神経系を落ち着かせ、前半 3 日間のトレーニング体験を統合し、後半に向けて心身を整えるためのものです。わずか 3 日のトレーニングに対して、1 日の休日を設定しているのは、これがトラウマを扱うトレーニングであるためです。自分でも気づかないまま神経系が活性化していたり、心身が疲弊していたりすることがありますので、休息日は、ゆっくり楽しく過ごしていただくことを強く推奨しています。この意図をご理解いただけましたら幸いです。

Q7:3 年間のトレーニングの日程に、どうしても 2 日以上出席できないところがあります。参加は無理でしょうか。

A7:米国本部の規定上、1 モジュール(6 日間)あたり 1 日以上欠席は不可となっております。2 日以上欠席の場合、後日、ビデオ受講をすることで代用することが可能です。この場合、受講料は通常の場合と同額です。ただし、ビデオ受講が可能なのは、初級と中級のみで各 1 回ずつとなります。かつ、連続して2回のモジュールをビデオ受講することはできません(初級 2 回目と中級 1 回目の 2 回連続は不可ということです)。

Q8:トレーニングについてももう少し詳しい情報を得たいのですが、どうすればいいでしょうか。

A8:トレーニング申込受付の開始前に紹介講座を開催する予定です。詳細は後日、SE™Japan のホームページおよび、東京トレーニングの Facebook グループページにてお知らせします。

SE™Japan: <https://www.sejapan.website/>

Facebookグループ: <https://www.facebook.com/setrainingtokyo12>
